

# 二口遺跡発掘調査報告

—町道本田土合線拡幅改良工事に伴う発掘調査報告—

1997年3月

大門町教育委員会

## 序

豊かな自然に恵まれた大門町には、南方に連なる丘陵地を中心として、各時代にわたる遺跡が数多く存在します。

そのかけがえのない文化遺産を保護、活用し、後世に守り伝えることは、現在に生きる我々の大きな使命のひとつであります。

しかし、近年では産業経済の振興や各種の開発事業が次々に実施されるなかで、貴重な文化遺産が消滅していこうとしています。

本書は、町道の拡幅改良工事に伴って、その一部が消滅せざるを得なかった祖先の残した文化遺産を、紀録保存し、子孫へ伝えていくことが重要な責務であると考え、報告書としてまとめたものであります。

この報告書が多くの人々に活用され、地域の歴史の理解と文化財の保護意識の高揚になれば幸いに思います。

調査の終了に際し、適切な指導助言を賜りました県埋蔵文化財センター、及び地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

大門町教育委員会  
教育長 野上和雄

## 例　　言

- 1 本書は、富山県射水郡大門町に所在する二口造跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、町造本土合線拡幅改良工事に伴う本調査である。
- 3 調査期間は1996年8月26日～10月25日、調査面積は1,600m<sup>2</sup>である。
- 4 調査は、富山県埋蔵文化財センターの指導・協力を得て大門町教育委員会が実施した。調査は大門町教育委員会　主事　尾野寺克実が担当した。
- 5 本書の編集・執筆は、尾野寺克実が行った。
- 6 調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から有益な御教示を得た。記して感謝の意を表す。  
岸本雅敏・上野章・宮田進一・安念幹倫・古川知明・小林高範・越前慶祐・宮田明（敬省略）
- 7 発掘調査の作業には（社）大門町シルバー人材センターの御協力を得た。
- 8 遺物整理・報告書作成作業の参加者は次のとおりである。  
田中慎太郎・田中幸生・中谷正和・平井晶子・山崎雅恵・松本茂・浅野良治・小島あすさ・春名理史・小幡點子・西村倫子・三浦知徳・荒木慎也・廣瀬直樹・砂田普司・高橋泰雄
- 9 凡　例

~~~~~ 地山

## 目　　次

|            |    |
|------------|----|
| 序          |    |
| 例言         |    |
| 目次         |    |
| I 序章       | 1  |
| 1 遺跡の位置と環境 | 1  |
| 2 調査に至る経緯  | 2  |
| II 調査の概要   | 3  |
| 1 調査の経過    | 3  |
| 2 層位       | 4  |
| 3 遺構       | 4  |
| 4 遺物       | 8  |
| a 繩文土器     | 8  |
| b 石器       | 10 |
| III まとめ    | 13 |
| 参考文献       |    |

## 挿図目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| 第1図 遺跡の位置と環境           | 1  |
| 第2図 試掘調査トレンチ図          | 2  |
| 第3図 調査区割付図             | 3  |
| 第4図 第1・4地区全体・層序柱状図     | 5  |
| 第5図 第2・5・3・6地区全体・層序柱状図 | 6  |
| 第6図 出土遺物実測図(1)         | 9  |
| 第7図 出土遺物実測図(2)         | 11 |
| 第8図 出土遺物実測図(3)         | 12 |

## 図版目次

|                   |  |
|-------------------|--|
| 図版1 調査区全景・第1地区全景  |  |
| 図版2 第3地区全景・第6地区全景 |  |
| 図版3 基本層序・谷部層序     |  |
| 図版4 SD4・SD6       |  |
| 図版5 出土遺物(1)       |  |
| 図版6 出土遺物(2)       |  |
| 図版7 出土遺物(3)       |  |
| 図版8 出土遺物(4)       |  |

# I 序 章

## 1 遺跡の位置と環境（第1図）

大門町は、県の中央北部、射水平野の南西端に位置し、東は小杉町、西・南は高岡市、北は大島町に接している。地形的には、庄川右岸の扇状地と、丘陵地からなり、和田川が貫流している。

今回、発掘調査を行った二口遺跡は、縄文時代後晩期に主体をなす遺跡で、庄川右岸の扇状地に位置し、標高6.5m～7.4mで南から北へ向け徐々に低くなる。

二口遺跡が位置する射水平野は、遺跡の集中地となっている。しかし、多数の遺跡の存在が確認されてはいるが、ほとんどは弥生時代後期以降に形成されており、縄文時代に遡るものは稀である。また、大門町に存する他の縄文遺跡は、国史跡串田新遺跡（縄文中期・古墳）、生源寺新遺跡（縄文中期・奈良～中世）、小泉遺跡（縄文前～中期）の3遺跡を確認しているのみである。



第1図 遺跡の位置と環境

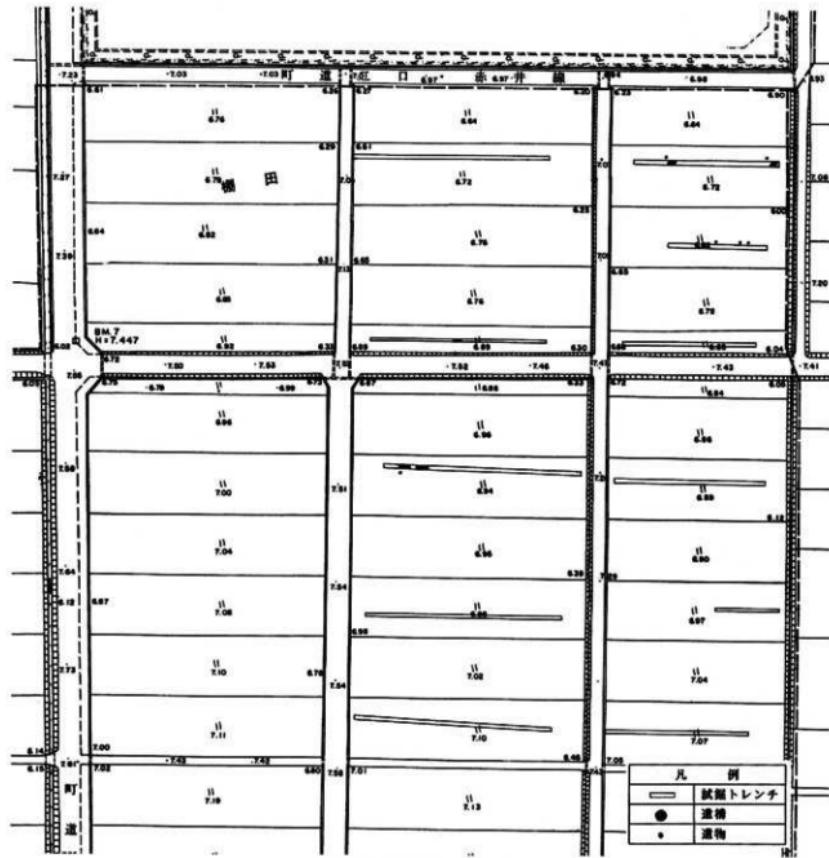
- |          |            |           |          |          |          |         |
|----------|------------|-----------|----------|----------|----------|---------|
| 1. 八塚C   | 2. 八塚      | 3. 八塚土田   | 4. 二口油免  | 5. 二口五反田 | 6. 安吉    | 7. 本田天水 |
| 8. 本田杉田  | 9. 本江畑I    | 10. 本江大坪I | 11. 倭田   | 12. 島前田  | 13. 島鉢田  | 14. 下条B |
| 15. 本江宮田 | 16. 本江大坪II | 17. 本田宮田  | 18. 本田畑田 | 19. 布目沢北 | 20. 布目沢東 | 21. 布目沢 |

## 2 調査に至る経緯（第2図）

大門町では、町道本田土合線の道路改良工事を計画、実施した。改良工事は幅員5～6mを拡幅し、新たに歩道を設けて幅員15mにするものである。

一方、富山県農林水産部高岡農地林務事務所は、平成4年度より平成8年度まで、大門町東部で県営は場整備事業を行った。町教育委員会では、工事に先立ち、富山県埋蔵文化財センターの協力を得て、試掘調査を実施してきた。確認した埋蔵文化財包蔵地は、遺構面及び、遺物包含層を傷つけないように計画変更を高岡農地林務事務所に求め、その理解を得て保護してきた。

しかし、町道拡幅部分に、その試掘調査時に確認した埋蔵文化財包蔵地が存在するため、町教育委員会は、町建設課・県教育委員会の3者でその取り扱いについて協議し、工事に先立ち、本調査を実施することとなった。

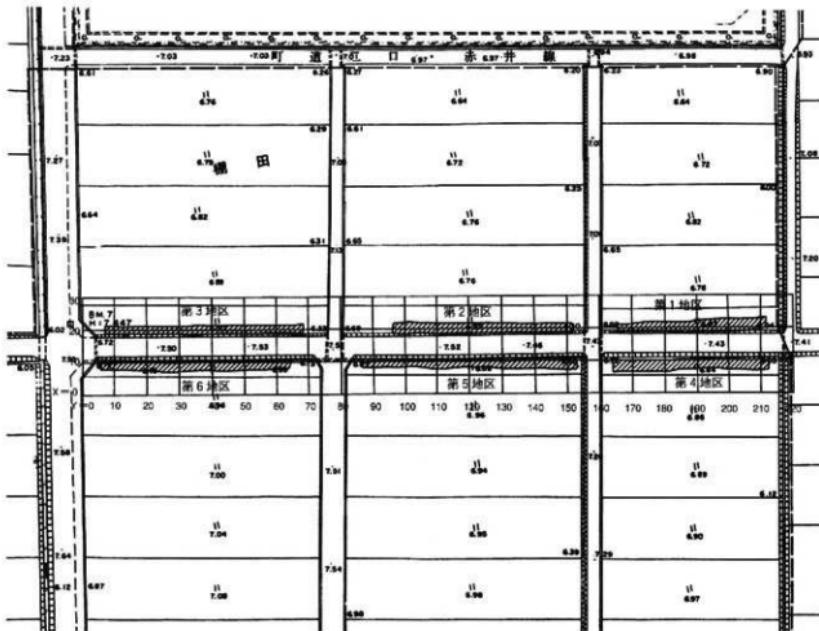


第2図 試験調査トレンチ図

## II 調査の概要

### 1 調査の経過（第3図）

任意で今回の調査地全体にわたる $10 \times 10\text{m}$ のグリッドを組み、南北方向にX 0 ~ 30, Y 0 ~ 220までを設定した。調査対象地は農道で東西3分割、町道本田土合線で南北2分割、計6分割されているため、便宜上第1地区～第6地区とした。調査面積は1,600m<sup>2</sup>である。8月26日、重機による表土掘削開始。9月2日より発掘調査開始。調査対象地付近は、東から西に、北から南に向けて地山が徐々に上がる。今回調査対象地は旧地形では周囲より若干高くなる地域になり、そのため、先のは場整備で中世遺構面が削平を受けて消滅しており、縄文時代の遺構面が残るのみであった。2 → 3 → 5 → 6 → 1 → 4 地区の順に遺構検出、及び遺構掘削を行う。地区毎に遺構完掘終了後、土層図及び、平面図を作成する。10月14日、第1地区にサブレンジ兼排水溝を設定中、縄文土器出土。さらに確認すると、第1・4地区は谷状の落ち込みとなっていて、そこに多量の土器が廃棄してあることが分かる。10月15日より第1地区を掘り下げ始める。第1地区を掘り下げた結果、遺物包含層は地下約60cmから存在していることを確認したため、第4地区ではその上10cm程度を残して重機で掘り下げるにした。18日、2・3・5・6地区の全景写真撮影。10月24日、4地区が掘り上がる。第1・4両地区的地山上には遺構が確認出来なかったため、25日、第1・4地区の全景写真を撮影して調査を終了する。



第3図 調査区割付図

## 2 層位

今回の調査区の基本層位は、表層から、1層耕土、2層床土、3層灰白色粘質土、4層黒色粘質土と褐色粘土の互層、5層青灰色粘質土、6層暗灰色シルト、7層黒褐色粘質土、8層暗褐色粘質土、9層青灰色砂質シルト、10層暗灰色砂土となる。1層は、層厚約20cmを測る。2層は、層厚約10cmを測るが、第1・4地区では近年のは場整備時の地面調整のため、残っていない。3層上面は、試掘調査時に中世の遺構検出面として報告されたが、今回の調査では、遺構は確認していない。また、表面に露出して、時間が経つと褐色に変色する。層厚0~15cm。4層は、約2cmの黒色粘質土の層3本の中に、これも約2cmの薄さの褐色粘土が2本挟まれている。5層は比較的安定した粘質土層であるが、遺構を確認することができなかつた。層厚0~20cm。9層は、部分的に植物遺体を含むが、その上面が縄文時代の遺構検出面となる。表面に露出すると、黄灰色に変色する。6~8層は、谷の中に堆積した層と思われる。7・8層は、植物遺体を多く含み、縄文時代の遺物の包含は、8層から見られた。

第1地区と第4地区は、谷の中であり、谷の落ち際は、調査区と調査区の間にに入るため、確認できなかつた。第2・5地区はすでに谷から抜けており、東から西へ向け、徐々に高くなる。それに加えて全体に削平を受けており、3層・4層は、Y140付近で、5層はY130付近で確認できなくなり、最終的に9層以下しか確認できなくなる。

## 3 遺構（第4図・第5図）

前述したとおり、中世の遺構は今回の調査では確認していない。縄文時代についても、低湿地帯であったためか、遺構は少ない。また、谷部の底にも遺構は確認できなかつた。

確認した遺構は、溝10条、土坑1基であるが、近世以降のものと思われる溝も2本、第2地区で検出している。

以下、遺構ごとにその概要を記す。

**S D 1** 第3地区で検出した流水路。幅80cm前後、最深で11cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

**S D 2** 第3地区で検出した流水路。幅85cm前後、最深で25cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

**S D 3** 第3地区で検出した流水路。幅35cm前後、最深で10cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

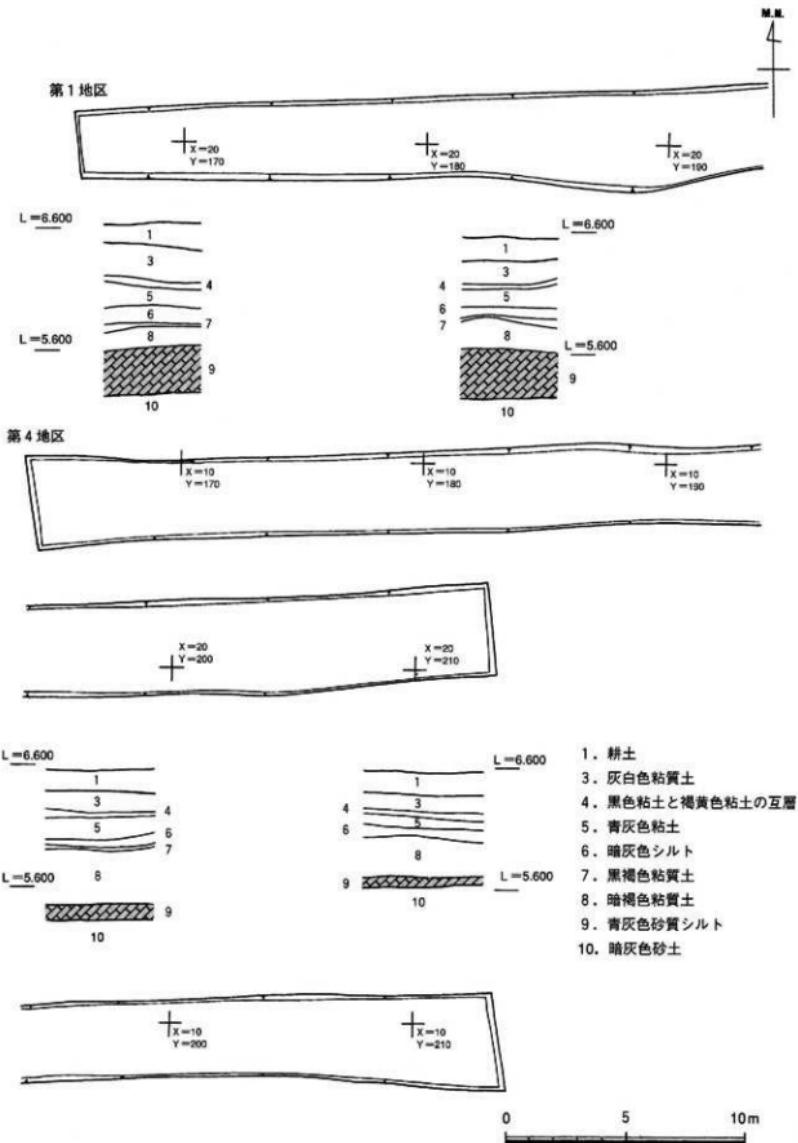
**S D 4** 第5地区で検出した流水路。幅90cm前後、最深で14cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

**S D 5** 第6地区で検出した流水路。幅50cm前後、最深で17cmを測る。埋土は単層で、黒灰色粘質土が入る。

**S D 6** 第6地区で検出した流水路。幅140cm前後、最深で29cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

**S D 7** 第6地区で検出した流水路。幅50cm前後、最深で10cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

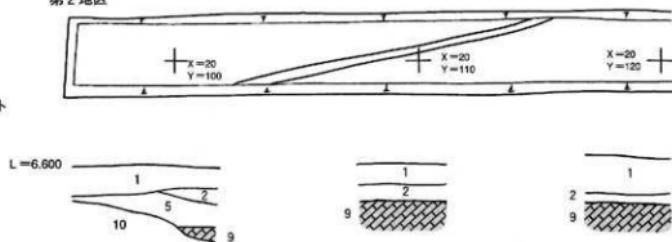
**S D 8** 第6地区で検出した流水路。幅90cm前後、最深で18cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。



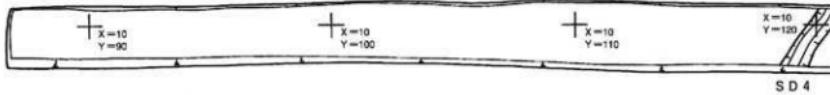
第4図 第1・4地区全体・層序柱状図

- 耕土
- 床土
- 灰白色粘質土
- 暗灰色シルト
- 青灰色粘土
- 青灰色砂質シルト
- 暗灰色砂土

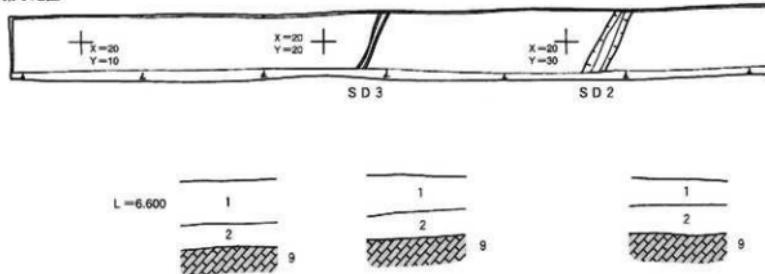
第2地区



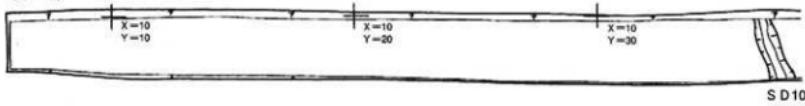
第5地区



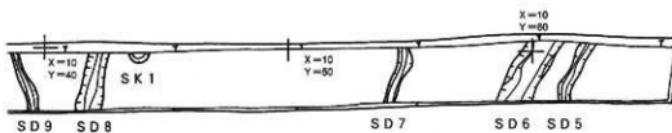
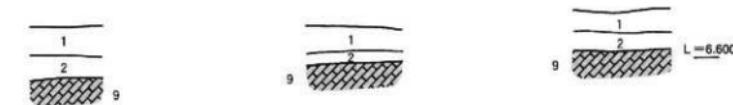
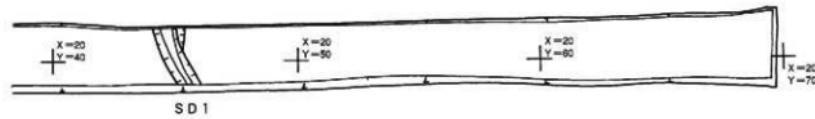
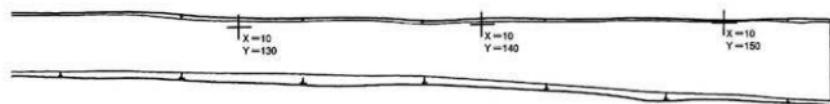
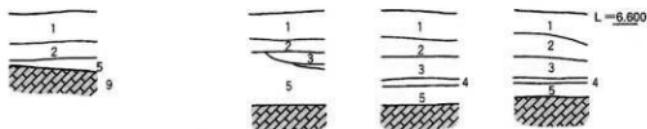
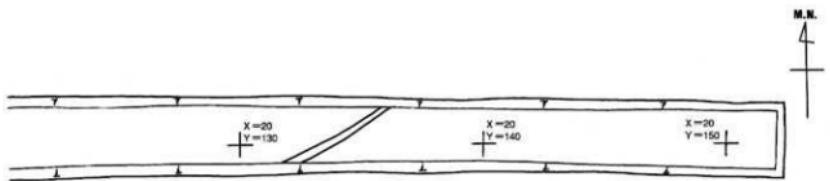
第3地区



第6地区



第5回 第2・5・3・6地区全体・層序柱状図



0 5 10m

**S D 9** 第6地区で検出した流水路。幅40cm前後、最深で12cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

**S D 10** 第6地区で検出した流水路。幅80cm前後、最深で11cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

**S K 1** 第6地区で検出した土坑。幅約80cm、深さは24cmを測る。埋土は単層で、植物遺体の混じる黒色粘質土が入る。

#### 4 遺物

出土遺物には、縄文土器、石器、珠洲焼がある。珠洲焼は全て床下からの出土で、図示できるものもない。また、縄文土器、石器はほとんど谷地形内の8層からの出土である。

##### a 縄文土器（第6図・第7図）

大洞B式からBC式後半併行期までを御経塚式。大洞BC式後半からC1式併行期までを中屋式。大洞C2式併行期を下野式として時期区分を行った。

##### 御経塚式期

1は頸部から胴上部で、頸部での屈曲は弱い。弧線文と三叉文を施し、内面には煤が付着している。

##### 中屋式期

2は口径約33cmの深鉢の口縁部で、頸部の屈曲の強い器形である。口唇部に梢円刺突文を、口縁部に沈線を施す。内外面には煤が付着している。

3は口径約23cmの楕状の浅鉢の口縁部である。口縁部に弧線文と鈎手状文を施し、外面には煤が付着している。

##### 下野式期

4は屈曲の弱い「く」の字状口縁の深鉢の口縁部から胴上部である。口縁部および肩部には沈線間に連続押引き列点文が施されており、頸部は無文帯となっている。外面には煤が付着している。

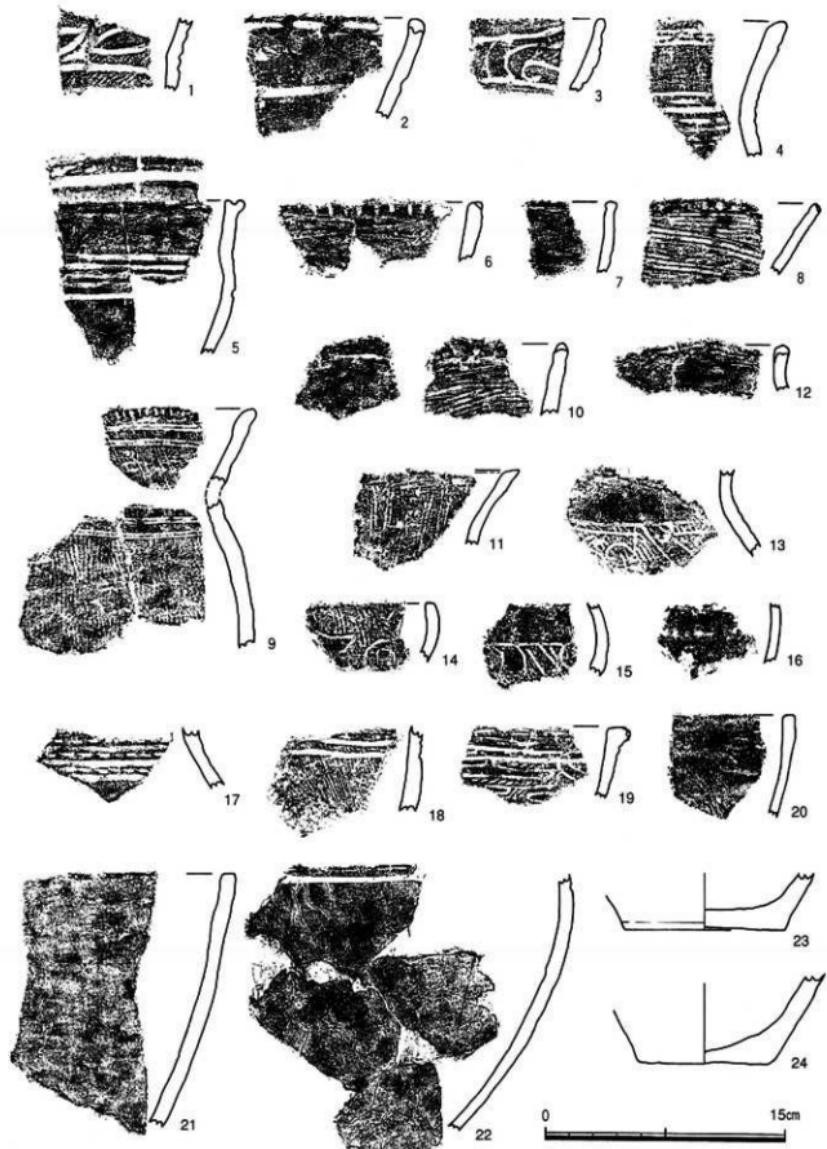
5は口径約26cmの深鉢の口縁部から胴上部である。長く伸びる「く」の字状口縁で、胴の張りは弱い。内外面ともに丁寧に磨き、口縁部・肩部に沈線を施す。外面には炭化物が付着している。

6・7は立ち気味の口縁形態となる深鉢の口縁部である。6は口径約21cmで、地文は二枚貝による横条痕である。口唇部にはヘラによる刻みを施し、外面には煤が付着している。7は口径約23cmで、口縁部内面には沈線が施されている。内外面ともに丁寧に磨かれている。

8は口径約27cmの深鉢の口縁部で、頸部の括れの強い器形である。地文は横条痕で、口唇部には櫛齒状工具による刻みを施し、口縁内面に沈線を施す。外面には煤が付着している。

9は口径約24cmの深鉢で、頸部の括れの弱い器形である。地文は縱条痕で、口唇部には櫛齒状工具による刻みを施し、口縁部および頸部に沈線を施す。外面には炭化物が付着している。

10は口径約20cmの深鉢の口縁部で、口縁形態は波状口縁である。地文は横条痕で、口縁内面に沈線を施す。外面には炭化物が付着している。



第6図 出土遺物実測図(1)

11は口径約22cmの深鉢の口縁部で、緩く外彎する器形である。地文は口縁部直下のみ横条痕であり、その他は縦条痕である。口唇部は面取りされており、外面には炭化物が付着している。

12は口径約16cmの深鉢もしくは浅鉢の口縁部である。『野々市町御経塚遺跡』の図5-116-13に類似し、口縁部に4単位の突起を持つと思われ、突起間に沈線が巡る。外面には煤が付着している。

13・14・15・16・17・18は深鉢の頸部及び胴部である。13は胴の張る壺状の器形である。地文はR L縦文で、頸部は磨消しにより無文帶となっており、肩上半部には釣手状文や『境A遺跡』の岡版243-3に類似した文様を持つ。14は梢円文と沈線を施している。内面には煤が付着している。15は胴の張る器形で、梢円文もしくは張線文と思われる文様を施文する。外面に煤が付着している。『境A遺跡』の岡版242-18に類似することより下野式に比定した。16は刺痕系列点文を施し、内面を丁寧に磨いている。17は沈線間に連続押引き列点文を施し、外面に炭化物が付着している。18は地文が縦条痕で、沈線を施文している。

#### 大洞A式併行期

19は口径約34cmの壺状の深鉢の口縁部である。口縁部に眼鏡状隆帯を持ち、その直下に梢円工字文を施す。口唇部は面取りされており、内面は丁寧に磨かれている。口縁部に眼鏡状隆帯を持つことより大洞A式段階に比定できる。

#### 無文土器

20・21・22は頸部の括れのない深鉢の口縁部である。20は口径約29cmで、外面に炭化物が付着している。21は口径約30cmで、内外面ともに丁寧に磨かれている。内外面に煤が付着している。22は内外面を丁寧に磨き、外面に炭化物が付着する。

#### 底部

23・24は平底で、底面よりほぼまっすぐに外側に聞く器形の土器底部である。23は底径約10cmで、外面に煤が付着している。24は底径約8cmで、外面に煤が、内面に炭化物が付着している。

#### 粗製土器

25は有文の深鉢、もしくは浅鉢である。口縁部に梢円刺突文を、口縁部は沈線間に連続烈点文を施す。

26~31は深鉢である。26の地文はL R縦文である。口縁部外面に煤が付着する。27の口唇部は指で押圧を施し、小波状を呈する。

28・33は無文土器である。28は内面にナデ調整を施し、口縁部外面に煤が付着する。33は口縁部内外面に炭化物が付着する。

29の地文は条痕で、口唇部を面取りする。口縁部内外面に煤が付着する。

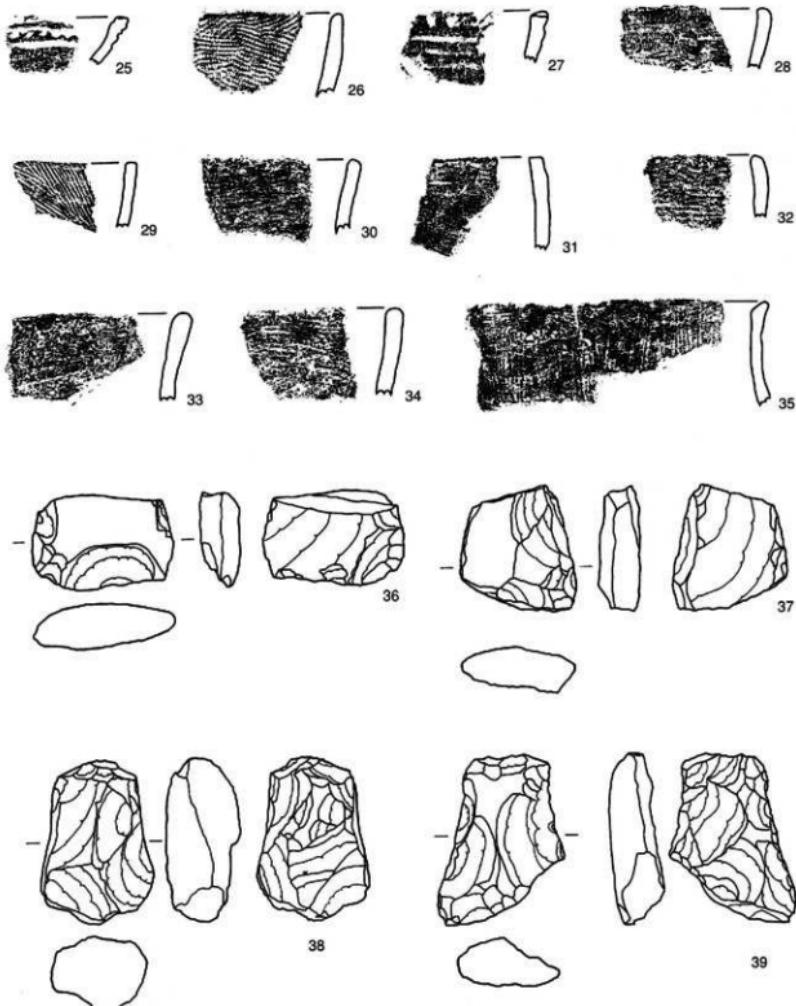
30~32・34の地文は横条痕である。31は口唇部に面取りを施す。

35の地文は縦条痕で、口唇部は面取りする。口縁部外面に炭化物が付着する。

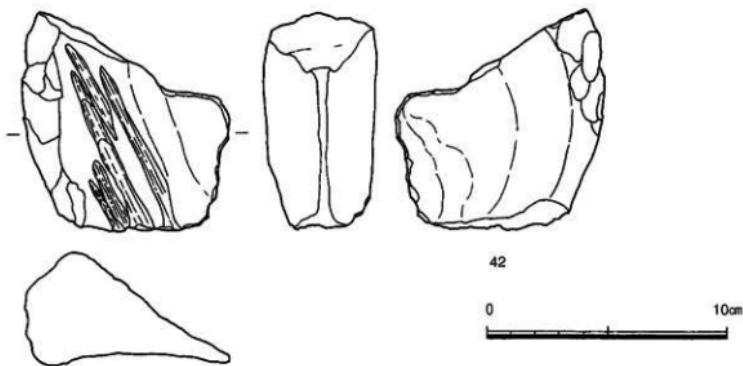
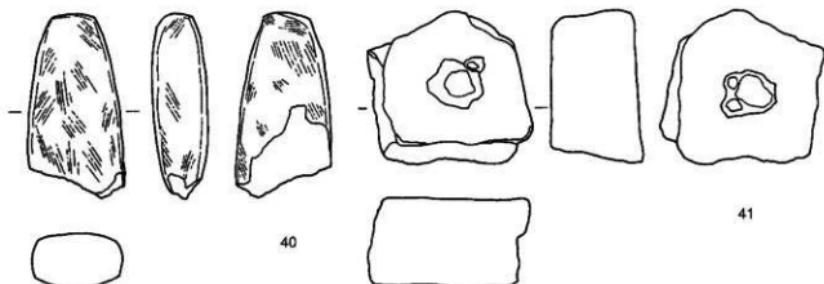
#### b 石器（第7図・第8図）

石器は、打製石斧、磨製石斧、凹み石、筋砥石がある。

36~39は打製石斧である。36の石材は凝灰岩で、残存部中最大長5.8cm、最大幅8.7cm、最大厚2.5cmを測る。基部は欠損している。37の石材は砂岩で、欠損が著しく、刃部、基部は残存していない。38の石材は安



第7図 出土遺物実測図（2）



第8図 出土遺物実測図（3）

山岩で、残存部中最大長10.0cm、最大幅7.0cm、最大厚4.5cmを測る。形態は短冊形を呈し、刃部は欠損している。39の石材は凝灰岩で、残存部中最大長8.4cm、最大幅6.9cm、最大厚2.7cmを測る。刃部は欠損しているが、形態は撥形を呈す。

40は磨製石斧である。石材は蛇紋岩で、残存部中最大長7.0cm、最大幅3.7cm、最大厚2.2cmを測る。刃部が欠損している。

41は凹み石である。石材は砂岩で、欠損が著しく、中央部のみの残存である。両面を砥石として使用した後の転用品だと思われる。両面に浅い敲打痕が残る。

42は筋砥石である。石材は砂岩で、5条の溝が同一方向に並ぶ。溝は断面U字形を呈するが、深さは2～3cmと浅い。石肌の転用品である。

### Ⅲ ま と め

最後に、前章まで述べた調査の概要を簡単にまとめたい。

今回の調査対象地は、二口遺跡の西端部にあたるが、中世面は削平を受けて遺存していない。

縄文時代の遺構面は削平を受けていないようであるが、谷以西は、低湿地帯となっており、遺構・遺物の存在が極端に少ない。縄文時代の集落の本体は調査区東側で確認した谷以東のようである。今後、町道本田七合線拡幅工事に係る調査が東側にのびるに伴い、まとまった集落の確認が期待される。

#### 参考文献

- 石川県教育委員会 1977 「松任市長竹遺跡発掘調査報告書」
- 石川県立埋蔵文化財センター 1989 「金沢市米泉遺跡」
- 金沢市教育委員会 1981 「金沢市中屋遺跡」
- 金沢市教育委員会 1986 「金沢市新保本町チカモリ遺跡－第4次発掘調査兼土器編」
- 酒井重洋 1976 「上市町眼目新丸山A遺跡」「人境」第6号 富山考古学会
- 酒井重洋 1987 「井口村井口遺跡出土の縄文晩期の土器」「大境」第10号 富山考古学会
- 出崎政子 1969 「北陸地方の縄文時代晩期について」(I)「大境」第3号 富山考古学会
- 戸田哲也 1982 「飛驒における晩期縄文土器の様相」「信濃」第34巻第4号 信濃史学会
- 富山県教育委員会 1991 「北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編6－境A遺跡上器編」
- 富山県教育委員会 1992 「北陸自動車道遺跡調査報告－朝日町編7－境A遺跡総括編」
- 富山県立高岡工芸高等学校地理歴史クラブ 1967 「富山県勝木原遺跡」
- 富山文化研究会 1973 「富山市杉谷(67・81・64番)遺跡」
- 沼田啓太郎 1956 「山石川郡安原村中屋遺跡調査報告」「石川考古学研究会会誌」第8号 石川考古学研究会
- 能登町教育委員会 1986 「真脇遺跡」
- 野々市町教育委員会 1983 「野々市町御経塚遺跡」
- 橋本 正・酒井重洋・久々忠義 1980 「富山県井口村井口遺跡発掘調査概報」井口村教育委員会
- 東日本埋蔵文化財研究会 1991 「東日本における縄作の受容」第1分冊研究発表概要・追加資料一
- 吉岡康暢 1971 「石川県下野遺跡の研究」「考古学雑誌」第56巻第4号 日本考古学会
- 米沢義直 1969 「金沢市松村町晩期縄文遺跡概報」「石川考古学研究会会誌」第12号 石川考古学研究会

## 報告書抄録

| ふりがな       | ふたりいせきにしきつちよきほうこく ちょうどうほんでんどあいせんかくふくかいきょうごうじにともなうはなくつち。うきほうこく |            |        |                              |              |                           |       |                           |
|------------|---------------------------------------------------------------|------------|--------|------------------------------|--------------|---------------------------|-------|---------------------------|
| 書名         | 二口遺跡発掘調査報告 一町遺本田土合線拡幅改良工事に伴う発掘調査報告                            |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| シリーズ名      | 大門町埋蔵文化財調査報告                                                  |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| シリーズ番号     | 11                                                            |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| 編著者名       | 尾野寺克実                                                         |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| 編集機関       | 大門町教育委員会                                                      |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| 所在地        | 〒939-02 富山県射水郡大門町二口1081 TEL 0766-52-6964                      |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| 発行年月日      | 1997年3月                                                       |            |        |                              |              |                           |       |                           |
| 所収遺跡名      | 所在地                                                           | コード        |        | 北緯                           | 東經           | 調査期間                      | 調査面積  | 調査原因                      |
|            |                                                               | 市町村        | 遺跡番号   |                              |              |                           |       |                           |
| ふたくち<br>二口 | 大門町二口                                                         | 163821     | 382002 | 36° 43' 13"                  | 137° 04' 02" | 19960826<br>~<br>19961025 | 1,600 | 町道拡幅<br>改良工事<br>に伴う調<br>査 |
| 所収遺跡名      | 種別                                                            | 主な時代       | 主な遺構   | 主な遺構                         |              | 特記事項                      |       |                           |
| 二口         | 集落                                                            | 縄文時代<br>晚期 |        | 縄文土器 打製石斧<br>磨製石斧 開み石<br>筋延石 |              |                           |       |                           |

图版 1

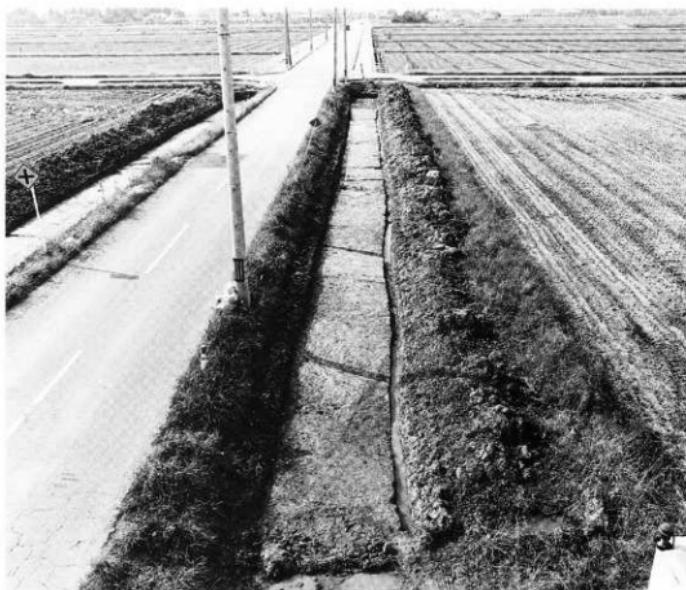


调查区  
全景



第 1 地区  
全景

図版 2

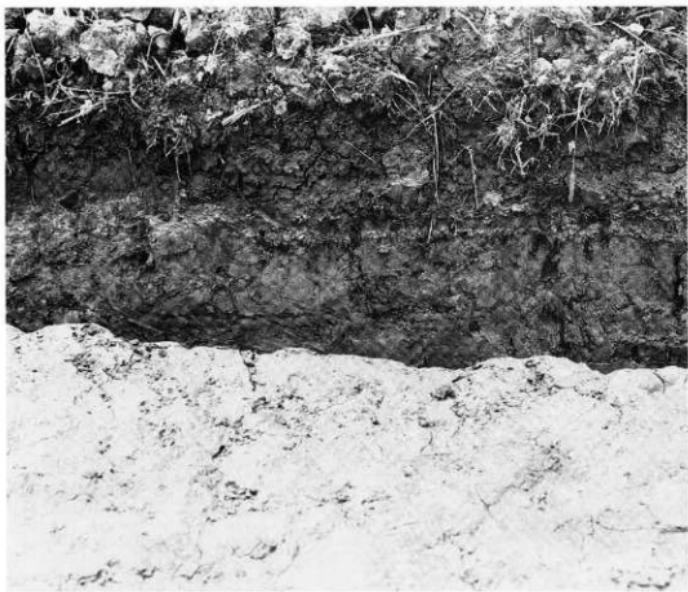


第3地区  
全景



第6地区  
全景

図版 3



基本層序

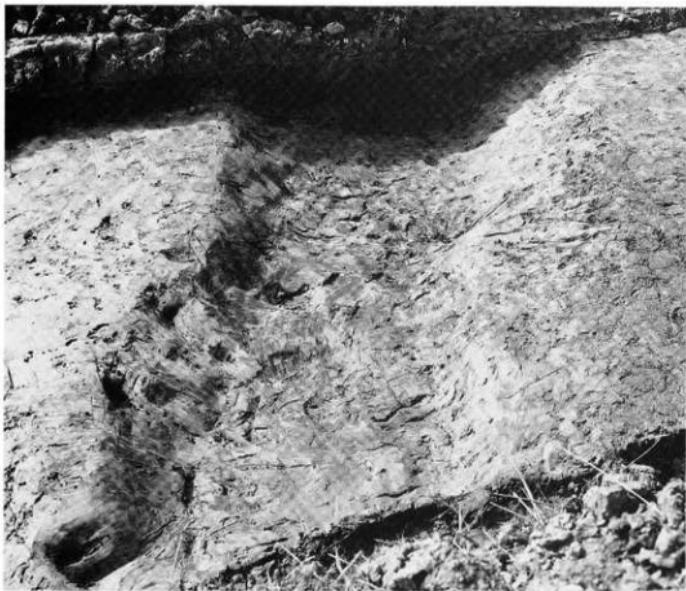


谷部層序

図版 4



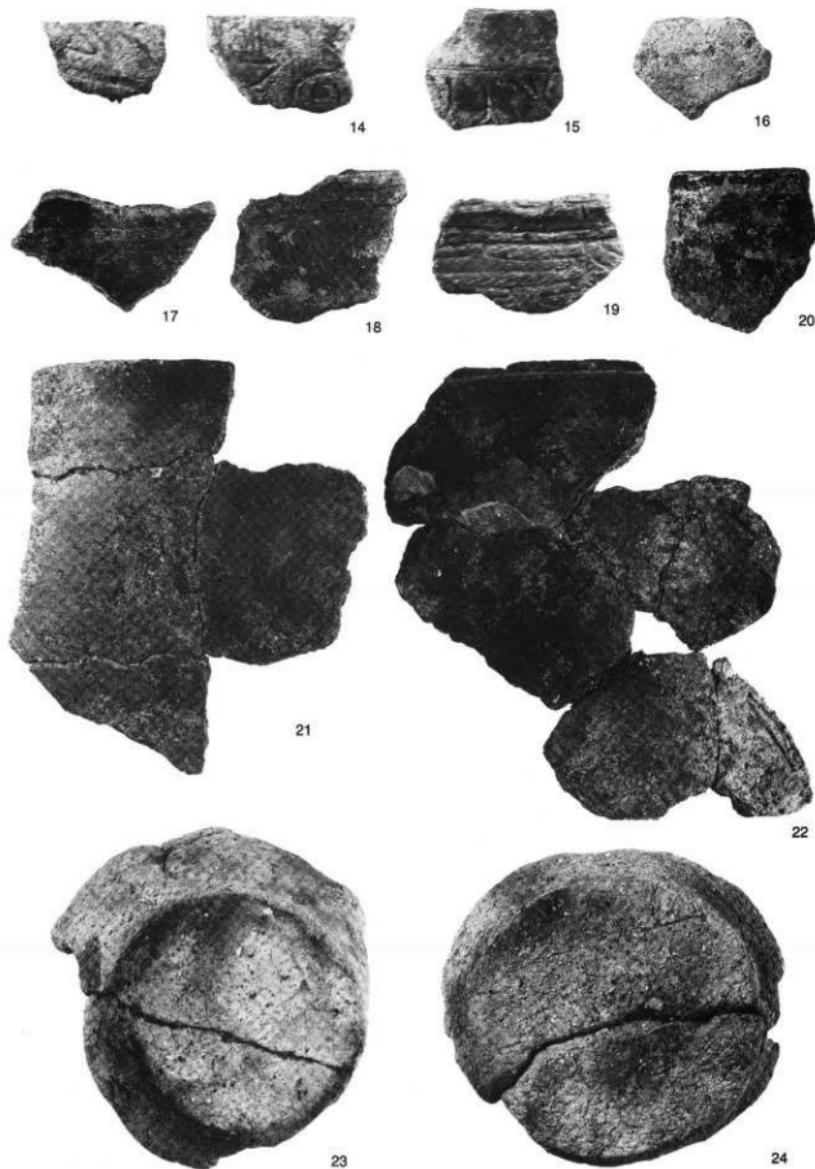
SD 4



SD 6



図版5 出土遺物（1）



図版6 出土遺物（2）



25



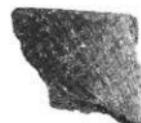
26



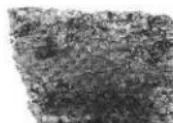
27



28



29



30



31



32



33

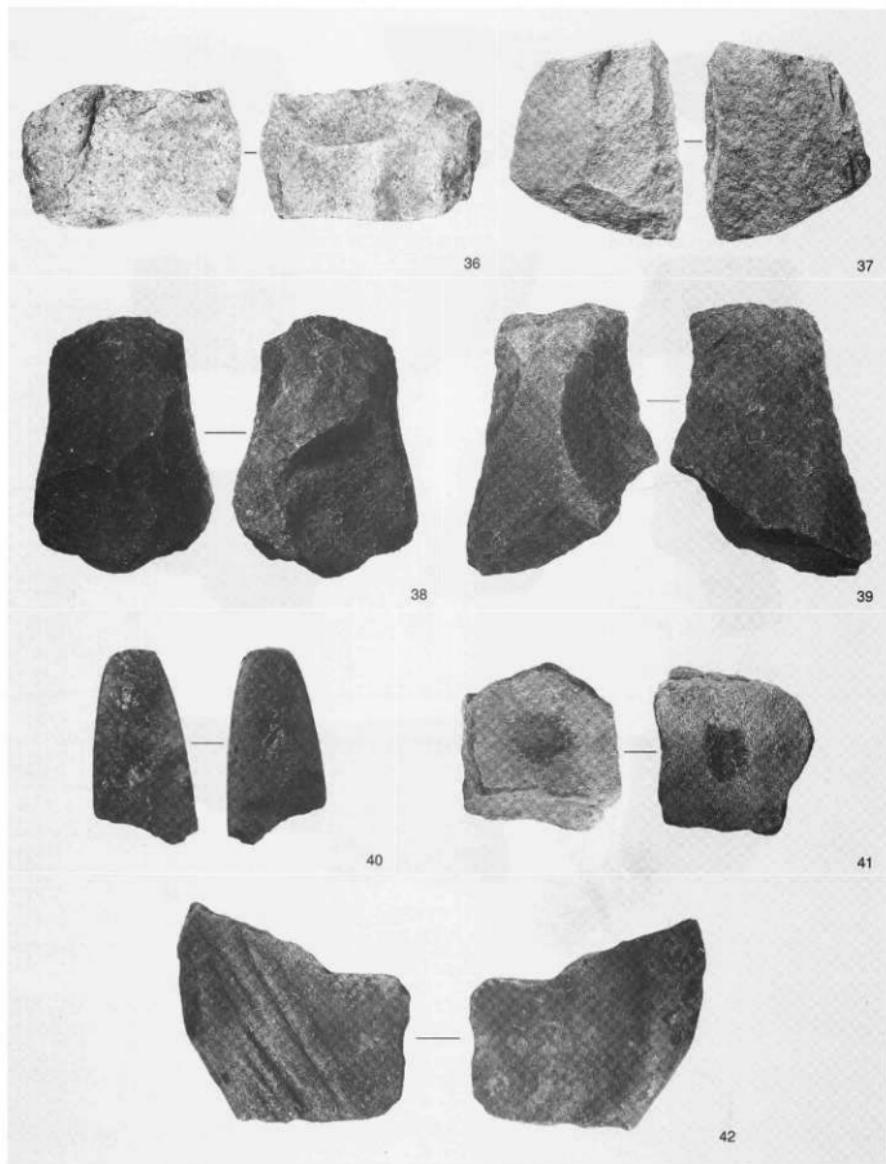


34



35

圖版 7 出土遺物 (3)



圖版 8 出土遺物 (4)

大門町埋蔵文化財調査報告第11集

## 二口遺跡発掘調査報告

町道本田合線拡幅改良工事に伴う発掘調査報告

発行日 平成9年3月

発 行 大門町教育委員会

編 集 大門町教育委員会

印 刷 小間印刷株式会社

